

# 絵描き井上ヤスミチの 4月4日なものが すきでして... (7)

## 続・我が家のコンポストの話

2016年の秋からごみっと・SUNの表紙イラストを描かせていただいている井上ヤスミチです。エッセイのようなものを書いてみないかとお誘いをいただき、絵筆じゃない文章の筆をとることになりました。ごみ問題のことはわからないので、一見ムダに思えることにも有用なものがあるよなあというぼんやりしたくくりで書いております。

去年の春に、我が家の屋外に設置したコンポストについて書きましたが、今回はさらに一年半ほど経ってどんな状況を報告したいと思います。

生ごみは、おそらく問題なく、家族五人ぶんの野菜くずを堆肥化し続けてくれています。おそらくとつけたのは、土のような見た目にはなっているのですが、それが有用な堆肥なのかどうか確かめられてないから。匂いは堆肥のような匂いです。プランターに混ぜて花が枯れたりもしないし、それなりに育っています。我が家で唯一プランターを並べられる箇所が北側なのでそもそも植物の生育が悪く、もりもり育たないのが堆肥のせいなのか日照のせいなのかというところ日照によるところが大きいと思うのですが、確かめようがない。

土には酸度というものがあって、趣味のコンポストでわざわざそこまで調べなくてもと思ってこれまで調べていませんでしたが、先程検索してみたら土壌用の酸度測定器が千円ほどであるようなので、今度買って調べてみようかと思えます。

家にあった木材で作って雨ざらしなので朽ちてくるかなと思いましたが、いまのところ大丈夫です。常時生ごみの水分に接する内側の部分はいずれ傷んでくるでしょう。

できた堆肥の使いみちにやや困っています。庭があるわけでもなく、プランターに投入するほかないのですが、プランターをこれ以上増やしても置く場所がないなあ。

さて、唐突ですが、ここでコンポストの宿命を3つ紹介しましょう。我が家だけかもしれませんが、過去

に何度も起きていることです。コンポストの経験があるかたには「そうそう、あるある」とうなずいてもらえるかもしれませんが、これからコンポストを始めようという人には良い前情報になるのでは。

宿命その1、カボチャが生えてくる。コンポストでできた堆肥を入れたプランターから、植えた覚えのない野菜の芽が毎年生えてきます。必ず出てくるのがカボチャの芽。種が大きいので、コンポストで発酵が進み高温になっても生きてままだ残るのでしょうか。あるいは、しっかり堆肥になっていないから生き残っているのでしょうか。

今年はカボチャに加えてピーマンも発芽し、カボチャは苗の段階で摘んでしまいましたがピーマンは放置していたらたくさん実がなりました。堆肥の効果の検証の意味もこめて、プランターの土にコンポスト以外の堆肥や養分は入れていません。実が採れたくらいだから、堆肥としての機能はいくらか果たしているのでしょうか。



宿命その2、ミズアブ発生。これは毎年ではないけれど、過去に4~5回は起きています。まず、コンポスト内に灰色のちょっとつぶれたような形の幼虫が大量に発生。これがそのうち羽化して、小さい黒いハチのような形のミズアブの仲間になります。アメリカミズアブとコウカアブというのが代表的な種だそうです。ハチに似ているので一見怖いのですが、ハエの仲間、針で刺したり血を吸ったりしません。僕は素手で捕まえて、飼っているヒキガエルのケースに放り込みます。カエルはパクリとアブを食べてくれます。

宿命その3、冬は堆肥化がなかなか進まない。我が家は東京豊島区、コンポストは屋外。東京もだんだん寒くなってきました。微生物は温かいほうが活発なので夏はぐいぐい分解が進んでかき混ぜ甲斐があるのですが、冬はなかなか分解が進みません。しかしいつまでも野菜くずが残っているかという、いつのまにか姿を見なくなるのでゆっくりと分解は進んでいるようです。

飼っているヒキガエルたちも土に潜って冬眠をはじめました。人間も冬場は活動をゆっくりにする方がいいのかもしれない。

井上ヤスミチ <http://yasmichi.com>  
「ヤスミチ」で検索すると出てきます